

佐久エリア

小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町

お問い合わせ先 佐久地域振興局農地整備課 ☎0267-63-3150

1 おんせき 女堰



MAP D-6

【所 在】小諸市菱野
【築 造】室町時代(1336年頃)
【管理者】小諸市高峯土地改良区

室町時代初期、湯の丸堰と新田堰が統合されたのが女堰の起源といわれています。その後、開田が進むにつれ水需要が増え、その都度改修が繰り返されてきました。水害や用水不足のため昭和29年から7年をかけて改修が行われた際は、まだ終戦後の資材難の中での工事だったそうです。昭和45年に現在のコンクリート水路になり、用水供給が安定しました。



2 せんがたきゆかわようすい 千ヶ滝湯川用水



MAP D-6

【所 在】軽井沢町追分
【築 造】承応元年(1652年)
【管理者】千ヶ滝湯川用水土地改良区

江戸時代初期、柏木小右衛門が小諸藩に願い出て開削した御影用水(みかげようすい)の下堰にあたる水路です。昭和30年から45年に実施した県営事業で現在の施設に改修されました。水源である湯川は、かんがい期間を通じて水温が著しく低く、冷水による低温障害を防止するため、水路中流部には、水温上昇を目的とした延長約1km、幅20m、水深20cmの温水路(おんすい)と呼ばれる特徴的な施設があります。



9 うませき 宇山堰



MAP E-5

【所 在】立科町 蓼科山麓～宇山区
【築 造】寛永14年(1637年)
【管理者】立科土地改良区

芦戸村(現立科町)の土屋庄蔵・遠山長作らにより開削された約40kmの水路です。岩場やゴロウ(石場)などの難所があり、毎春芝土をあてがって漏水を防いでいたと伝えられています。明治時代に一部が石樋に変えられ、昭和30年代には用水路の再編に伴いその役目を終えましたが、今も残る石樋の佇まいから往時の苦労が偲ばれます。昭和40年、先人の明と勇を称える記念碑が現地に建立されました。



10 しおざせき 塩沢堰



MAP F-5

【所 在】立科町
【築 造】1646年頃
【管理者】立科土地改良区

江戸時代初期に田屋原(現立科町)に移り住んだ初代六川長三郎勝家は、1641年蓼科山麓に弁天神(べていじん)、水出(みずいで)の湧水を探し当てると、私財を投げ打って総延長55kmに及ぶ塩沢堰を、6年の歳月を費やして完成させました。その後六川家は、代々長三郎を襲名し、12代にわたり堰の保全・管理と用水の確保に尽くしてきました。農林水産省の「疏水百選」に選定されています。



3 みまきはらだい こうかんせんようすい 御牧原第1号幹線用水路



MAP E-5

【所 在】佐久市望月ほか
【築 造】昭和45年(1970年)
【管理者】北佐久郡川西土地改良区連合

女神湖などとともに県営事業により造成された延長約12kmの水路です。塩沢堰、八重原堰、宇山堰を1つに統合することにより生み出した水を、それまでため池のみに頼っていた御牧原台地に導水するためのものです。サイホンが4ヶ所あり、中でも望月サイホンは、延長6km、高低差は220mに及び、農業土木事業としては稀に見る長いサイホンです。



4 しかようすい 四ヶ用水



MAP E-6

【所 在】佐久市
【築 造】1615～1623年頃
【管理者】佐久市土地改良区

上州(現群馬県)南牧(なんもく)出身の市川五郎兵衛(ごろべえ)は、仕えていた武田氏が滅びると「志すに武に非ず、殖産興業にあり」と徳川家康に申し出て、領地内で土地の開拓を認めるという朱印状を与えられました。五郎兵衛はこれを持って佐久に入り、まず湯川の水を引いて三河田(みかわだ)新田を拓きました。猿久保、三河田、今井、横和という旧村にちなみ現在四ヶ用水と呼ばれています。



5 つねぎようすい 常木用水



MAP E-6

【所 在】佐久市
【築 造】1615～1623年頃
【管理者】佐久市土地改良区

市川五郎兵衛が佐久において三河田(みかわだ)用水(現四ヶ用水)の次に開削したのが常木用水です。四ヶ用水と同じく湯川から水を引き、湯川の右岸に市村新田を拓きました。取水口から流末まで標高差10mにすぎないところに水を滞りなく通すため、「わくり」という現在のサイホン式工法や、河川との交差部に石組みの箱樋で河床の下を潜らせるなど進んだ技術が用いられています。



6 さくだいらようすい 佐久平用水



MAP E-6

【所 在】佐久市
【築 造】昭和33年(1958年)
【管理者】佐久平土地改良区

佐久平用水は、城下、臼田、野沢及び平賀(ひらか)の4用水を合併して造成された水路です。千曲川の左岸にある頭首工から取水し、稲荷山下の沈砂池へと至り、ここで千曲川の右岸へ平賀用水を分水します。平賀用水は、サイホンにより千曲川を横断しており、また、左岸の水路についても隧道で稲荷山下を通過するなど、当時の工事の苦労がしのべれます。



11 おおだけかんせん 大岳幹線



MAP E-6

【所 在】佐久穂町
【築 造】江戸時代初期・昭和28年(1953年)
【管理者】佐久穂町

江戸時代に大岳川から取水する用水が開削されましたが、水争いは絶えませんでした。そこで明治期になると毎年八十八夜の日、水路途中にある滝の下(分水地点)で用水の分量を確認するようになりました。厳重に保管された藤づるの長さを用いたことから、藤蔓(ふじづる)分水と呼ばれていました。現在その役割は、昭和28年に造成された鉄筋コンクリートの鷲ノ口(うそのくち)円筒分水工が担っています。



12 そまぞえようすい ひろせようすい 杣添用水、広瀬用水



MAP F-6

【所 在】南牧村
【築 造】江戸時代(杣添用水)、1965年(広瀬用水)
【管理者】南牧村

杣添用水は、江戸時代に開削されたといわれ、杣添川沿いの水田6haをかんがいでいます。開削以降、改修された記録は特になく、ほぼ土水路のままの姿をとどめています。一方、広瀬用水は、昭和40年代に取水施設の改修や、末端の広瀬地区において整備が行われました。89haの水田をかんがいはるほか、板橋地区への補給水としても利用されています。



13 うつぱいり たなだ 宇坪入の棚田



MAP D-6

【所 在】小諸市菱平
【築 造】不明

小諸市北西部の菱野地区にある宇坪入の棚田は、浅間山麓の尾根に挟まれた沢筋に広がる石積の棚田です。標高900～970mに位置し、さまざまな大きさの石を積上げた石垣は美しい景観を形成しています。農家の高齢化が著しく、担い手も不足していますが、山羊が新たな草刈りの担い手として活躍し、美しい景観を保全しています。



7 ごろべえようすい 五郎兵衛用水



MAP E-6

【所 在】佐久市浅科
【築 造】江戸時代(1630年頃)
【管理者】五郎兵衛用水土地改良区

市川五郎兵衛は、三河田用水、常木用水に続いて千曲川の西に広がる草原に水を引こうと考えました。蓼科山中に源水(五斗水(ごともず))を見だし、小諸藩から用水開削の許可を得ました。変化に富んだ地形のためトンネルや水路橋、盛土(築堰(つきせき))などの技術が駆使されました。私財を投げ打った五郎兵衛の徳を慕って五郎兵衛新田と呼ばれるようになり、今ではブランド米の産地となっています。



8 あかぬま いけめがみこ 赤沼ため池(女神湖)



MAP E-5

【所 在】立科町芦田
【築 造】昭和41年(1966年)
【管理者】北佐久郡川西土地改良区連合

かつて赤沼と呼ばれた湿原に塩沢堰の余水を利用してため池を造ろうと、昭和17年に造成工事が始まりましたが、地質の不良のため未完のまま終戦を迎えました。その後、食糧増産への機運が高まり、昭和37年に工事再開、昭和41年に完成しました。この恵水は、立科から八重原の地域、さらには御牧原台地の農地へと行き渡っています。また、白樺高原の中心的な湖として観光客が絶えません。

